

2020年11月26日 平井竜一西東京市長選挙出馬表明会見原稿

皆さん、こんにちは。平井竜一と申します。

私は、この度、西東京市の新しいリーダーを決める戦いに挑戦することを決意しました。

私の持てる全ての力を注いで、西東京市の発展に尽くして参る覚悟です。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

さて、私は、1966年4月、神奈川県横浜市に生まれ、9歳より逗子市で育ちました。現在54歳。妻と子供3人の5人家族です。

学生時代に逗子市で巻き起こった米軍住宅建設問題に関わり、その時から地方政治に身を投じることを決意し、大学を卒業後に民間企業に8年半勤めた後、31歳で逗子市議会議員、40歳で逗子市長に就任し、以来、市長として3期12年間、議員時代を合わせて20年にわたって、地域の発展に尽して参りました。

2年前に公職を離れ、一民間人として、公民連携コンサルティングに携わる中、西東京市とのご縁が生まれました。

3カ月前、森てるお議員をはじめとした、西東京市政を刷新しなければならないという熱意をもった議員の皆さん、そして、市民の皆さんと出会い、西東京市の現状を伺うとともに、このまちの魅力に引き寄せられたのです。

なぜ、私が、西東京市の魅力に惹かれ、このまちのリーダーをめざそうと決意したのか。その理由は、大きく3つあります。

一つ目。西東京市のことを思い、地域のために熱心に活動する素敵な市民や議員の皆さんがたくさんいること。そして、このまちの課題と一緒にあって取り組んでいくリーダーを熱望されていること。その候補として私に白羽の矢が立ち、皆さんの期待に応えたいと思いました。

二つ目。みどり豊かな街並み、新宿・池袋に近く利便性が高い、とても暮らしやすい住宅都市として、今でも人口が増え、税収も伸び発展し続けている、可能性あふれるまちであること。

知れば知るほど、行政と市民と事業者が力を合わせれば、もっともっといいまちになる大きな潜在力をもっているのに、本当にもったいない。

「こんなもんじゃないぞ！西東京市」と直感しました。

そして、三つ目。しがらみがない私だからこそできる、と考えたこと。

20年前に田無市と保谷市が合併して西東京市になりましたが、旧市のしがらみが今でも様々な場面で見

られると聞いています。私は、あらゆる市民の皆さん、事業者の皆さん、行政職員と、ニュートラルな立場で、西東京市の未来を見据えて議論を重ね、判断し、実行します。しがらみがないからこそ、このまちの新しい歴史づくりに貢献できると思っています。

- ①このまちを思う市民の熱い期待に応えたい。
- ②西東京市の可能性をもっと広げたい。「こんなもんじゃないぞ！西東京市」
- ③しがらみがないからこそできる。

これが、私が決断した3つの理由です。

次に、私が西東京市のリーダーをめざすにあたって、3つの基本姿勢についてお話します。今、地方自治体のリーダーに何が求められているのか。

一つ目は、「コロナ危機を克服する真のリーダーシップ」です。

第三波が拡大している今、コロナ危機という非常事態を克服するには政治のリーダーシップが不可欠です。

私は、市の役割というのは、国や都の支援策からこぼれてしまう市民や事業者に寄り添う姿勢と、対策を打ち出すことだと考えています。

例えば、PCR検査について、都の対策が不十分ならば、市が独自に対応するなど、厳しい財政の中でも優先順位を明確にして対策を打っていきます。

逗子市長を3期12年間勤め、東日本大震災やリーマンショックも経験したからこそ、トップとして状況を的確に判断し、先頭に立って行政をけん引することができると思っています。

二つ目は、「現場主義」

現場にこそ答えがある。常に現場に足を運び、市民や事業者の皆さんとの対話と協働によって、まちづくりを推進する現場主義を貫きます。

トップが現場に出ることで行政職員の意識が変わり、それが市民と行政の信頼関係につながって、西東京市を大きく変革できると確信しています。これまで、市長として、土日も夜もイベントや会合に出席して、いろんな市民と接してきました。その姿勢は変わりません。

そして、三つ目は、「将来ビジョンに基づくまちづくり」です。

合併から20年を経て、未だ市役所の場所も決まらず、まちのグランドデザイン＝未来像が描けていません。また、コロナ危機、SDGs、デジタル革命、働き方改革、多様性・ダイバーシティなど、時代の大きな転換を踏まえ、西東京市の将来ビジョンを市民とともに創り、その未来像に向かって政策を推進します。

①コロナ危機を克服する真のリーダーシップ

②現場主義

③将来ビジョンに基づくまちづくり

この3つが私のリーダーとしての基本姿勢です。

最後に、緊急提言としてのコロナ対策について申し上げます。

何よりも、市民の命と暮らしを守り、コロナ危機を克服するために

①PCR検査等を拡充します

都が打ち出したPCR検査では不十分です。高齢者施設や保育所・幼稚園・学校、零細小売・飲食店など、人と接する仕事に携わる市民にPCR検査や抗体検査を実施して、安心して働ける環境をつくるとともに、医師会等と連携して、医療体制を守ります。

②コロナ情報の徹底した公開

「市政の情報は市民のもの」が行政の基本です。特に、コロナ禍では正確な情報をタイムリーに発信し、市民と常に情報共有することで、不安を和らげ、的確な行動を促すことが重要です。情報公開日本一逗子市の経験を生かし、徹底した情報公開を進めます。

③すべての働く人を守る

第三波によって、飲食店等の営業時間短縮要請が再び出されました。コロナ禍で疲弊した地元商店や飲食店、生活が苦しい一人親家庭や大学生などに経済的支援が継続して必要です。国のコロナ交付金を活用しつつ、必要に応じて大胆に市の財政も投入してコロナ禍を乗り越え、全ての人の命と暮らしを守ります。

なお、政策の柱としては、市役所建設問題などの将来ビジョンづくり、子育て・教育、福祉、防災、環境といったテーマを設定して、今後、市民の皆さんとの対話を通じて、具体的な政策を練り、しかるべき時期に発表します。

例えば、SDGsという時代の要請に対して、「環境みらい都市」を掲げ、中古電気自動車を活用した公用車の全車EV化によって、環境への配慮と災害時の電源確保、財政の削減を同時に実現する、といった具体策を今後打ち出してまいります。

対話にあたっては、コロナ禍を踏まえて、Webを活用した「平井×みらいカフェ」オンラインしゃべり場の開催、青空カフェと銘打った外での対話などを企画し、ホームページやSNSを通じてお知らせしていきます。

まちづくりは対話から始まります。

そして、対話が信頼を生み、信頼が協働をもたらします。

市民の皆さん、私たちと、まちづくりのこと、もっと話しましょう。

本気で話しましょう。

これから西東京市はもっと面白くなります。

ともに、西東京市を、皆さんが誇れるまちにして参りましょう。

以上で、私、平井竜一の決意表明とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。